株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
2017年2月7日

「アクティブラーニング型授業」9割以上の高校で実施 組織的な取り組みが約４割

―高校の進路指導・キャリア教育に関する調査2016　高大接続編―

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都中央区　代表取締役社長：山口 文洋）が運営する、リクルート進学総研(所長：小林 浩)では、高校の進路指導・キャリア教育の現状を明らかにするため、全国の全日制高校の進路指導主事に対して進路指導の困難度、キャリア教育の進捗状況等についての調査を実施いたしました。調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申しあげます。

アクティブラーニング型授業の実施状況

■９割以上の高校が、アクティブラーニングの視点による授業を実施。組織的な取り組みが約４割。→P3~4

・アクティブラーニングの視点による授業を実施している高校は全体の92.9%。
・取り組みの主体者別にみると、学校全体や教科で組織的に取り組んでいる学校が41.7%。

※参考　前回調査（2014年）と比較すると、
アクティブラーニング型授業の実施率は約2倍に増加（2014年47.1%→2016年92.9%）。
学校全体・教科で取り組んでいるケースも2倍に増加（2014年20.7%→2016年41.7%）。
（アクティブラーニングの概念の変化に伴い、設問文を変更しているため参考値）

高大接続議論に対応した取り組み

■32.4%の高校が、高大接続議論を踏まえた取り組みを実施。→P5~6

・高大接続議論を踏まえた取り組みを実施している高校は全体の32.4%。
「今後取り組む予定がある」（45.6%）が、実施を上回った。

■対応を進めるうえでのハードルのトップは「大学入学希望者学力評価テスト（仮）の内容がまだ具体的ではないので対策が取れない」（51.2%）。→P7

グローバル社会への対応

■34.4%の高校が、グローバル社会を意識した教育の取り組みを実施。前回調査（2014年）より10.2ポイントの上昇。→P8

※出版・印刷物へデータを転載する際には、“「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査2016 」リクルート進学総研調べ”と明記ください。

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ　広報担当
https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

【調査概要】

■調査目的：全国の全日制高等学校で行われている進路指導・キャリア教育の実態を明らかにする
■調査期間：2016年10月6日(木)～10月28日(金)投函締切（11月4日(金)到着分まで集計対象）
■調査方法：質問紙による郵送法
■調査対象：全国の全日制高校の進路指導主事4,807人
■集計対象数：1,105人（回収率23.0%）
※本調査は隔年で実施しております

【回答校プロフィール】

■高校所在地 （全体／単一回答）　（%）

	調査数	北海道	東北	北関東・甲信越	南関東	東海	北陸	関西	中国・四国	九州・沖縄	無回答
2016年 全体	1105	6.2	9.2	13.9	18.4	13.4	2.7	13.3	10.0	11.8	1.1
2014年 全体	1140	7.1	11.4	11.8	16.8	13.5	2.7	12.0	11.3	12.5	0.8
2012年 全体	1179	7.5	10.3	11.5	17.3	12.7	2.4	13.2	11.6	12.9	0.5

■高校タイプ（全体／単一回答）　（%）

	調査数	普通科単独校	普通科中心で学科併設校	総合学科単独校	総合学科併設校	工業を中心とする高校	商業を中心とする高校	家政を中心とする高校	農業を中心とする高校	その他	無回答
2016年 全体	1105	56.6	20.2	6.2	1.2	5.2	3.3	0.2	2.8	3.4	0.9
2014年 全体	1140	54.6	20.1	5.2	1.1	5.9	3.2	0.4	2.4	5.4	1.8
2012年 全体	1179	54.3	19.1	5.8	1.3	5.8	3.4	0.4	2.0	4.7	3.2

■大学短大進学率（全体／単一回答）　（%）

	調査数	70%以上	40～70%未満	40%未満	無回答
2016年 全体	1105	47.5	19.0	32.4	1.1
2014年 全体	1140	46.5	18.6	34.1	0.8
2012年 全体	1179	45.7	19.8	32.9	0.5

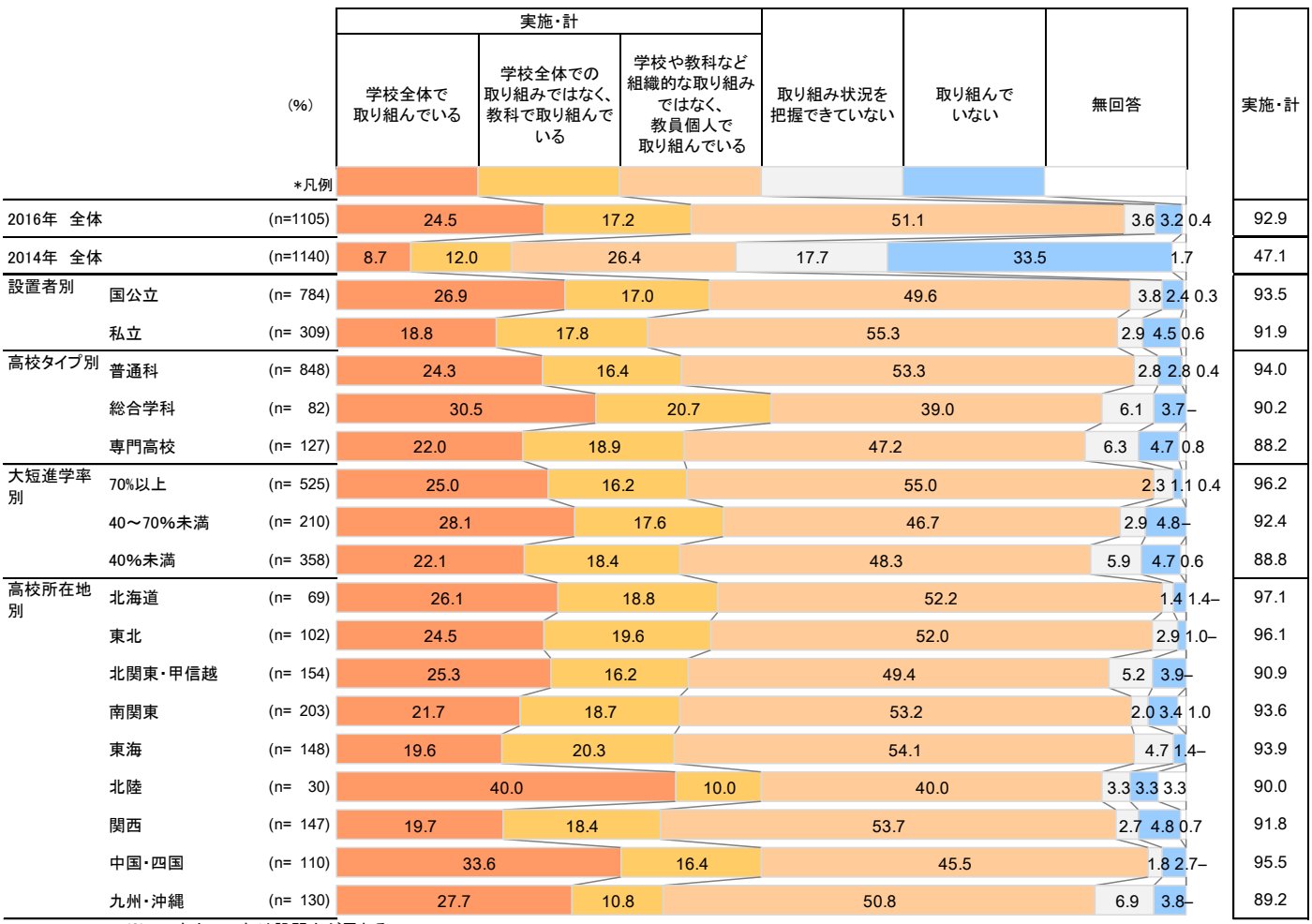
【アクティブラーニング型授業の実施状況】

■ ９割以上の高校が、アクティブラーニングの視点による授業を実施。組織的な取り組みが約４割。

・アクティブラーニングの視点による授業を実施している高校は全体の92.9%。
・取り組みの主体者別にみると、学校全体や教科で組織的に取り組んでいる学校が41.7%。

※参考　前回調査（2014年）と比較すると、
アクティブラーニング型授業の実施率は約2倍に増加（2014年47.1%→2016年92.9%）。
学校全体・教科全体で取り組んでいるケースも約2倍に増加
（2014年20.7%→2016年41.7%）。
・アクティブラーニングの概念の変化に伴い、設問文を変更しているため参考値

■アクティブラーニングの視点による授業の実施状況 （全体／単一回答）



※2016年と2014年は設問文が異なる。
2016年　Q15. アクティブ・ラーニングの視点（主体的・対話的・深い学び）による授業に取り組んでいますか。□貴校の取り組み状況に最も近いもの１つに○をおつけください。
2014年　Q17. アクティブラーニング型授業への転換など、一斉講義型ではない授業への授業改善を行っていますか。貴校の取り組み状況に最も近いもの１つに○をおつけください。
※「2016年　全体」より　10.0 10pt以上高い　／　5.0 5pt以上高い　／　- 5.0 5pt以上低い
※時系列の全体同士の差の網掛けはおこなっていない。

【アクティブラーニング型授業の実施状況】

■参考　アクティブラーニングの視点からの授業とは
（平成28年8月1日文部科学省中央教育審議会教育課程企画特別部会資料より抜粋）

「アクティブ・ラーニング」の視点は、学校における質の高い学びを実現し、子供たちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたってアクティブに学び続けるようにするためのもの。「学び」の本質として重要となる「主体的･対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善の視点が、「アクティブ・ラーニング」の視点。
①学ぶ意味と自分の人生や社会の在り方を主体的に結びつけていく**「主体的な学び」**
②多様な人との対話や先人の考え方（書物等）で考えを広げる**「対話的な学び」**
③各教科等で習得した知識や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせて、学習対象と深く関わり、問題を発見・解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想・創造したりする**「深い学び」**

アクティブラーニングによる授業の実施における疑問と不安（フリーコメント）

■型にとらわれないことが重要

・アクティブ・ラーニングを表面的にとらえないことが大切で、従前からの教育活動にもたくさんアクティブラーニング的な要素があることに気づくことが大切だと思っています。

・何か特別なことを行わなければアクティブラーニングにならないと判断され、物事の本質が理解されない不安がある。（一斉授業でもアクティブラーニングが成り立っている場合もある。）

・個人的にですが、アクティブ・ラーニング（言葉は別として）は、当然のことと誰もが昔から考えているのだと思い、工夫していると思います。今は、過渡期で過剰であったり、いろいろな聞こえ方をしているのでしょう。正常な形に落ち着くことを期待していると同時に、我々も努力をさらにするべきでしょう。

・「アクティブ・ラーニング」という方法をやれば良いと考えている人が多い。その教科・科目・単元に合う方法を考え、その結果アクティブラーニングがマッチすればやれば良いだけの事と思う。

■基礎学力とのバランス

・前提として、ある程度の基礎学力が必要だと思われる。どのようにバランスを取っていくのか、基礎学力の保障はどうすべきか、またアクティブ・ラーニングそのものが目的になっているのではないか。

・基礎学力を身につける方法の１つではなく、基礎学力を身につけた後に、どのように問題解決を考えていくのかという場面でアクティブ・ラーニングは導入されるのではと考えています。

・アクティブ・ラーニングのもととなる基本的な知識や考え方をしっかり身につけさせることの方が重要。アクティブラーニングを強調しすぎると、基礎力不足なのに、応用ばかりやろうとし無駄に終わる。

■評価の問題

・一番大きい課題は「評価」。何をもって、どう評価するべきかが難しい。

・評価方法が難しい。客観的な評価準備づくりはできるのか？

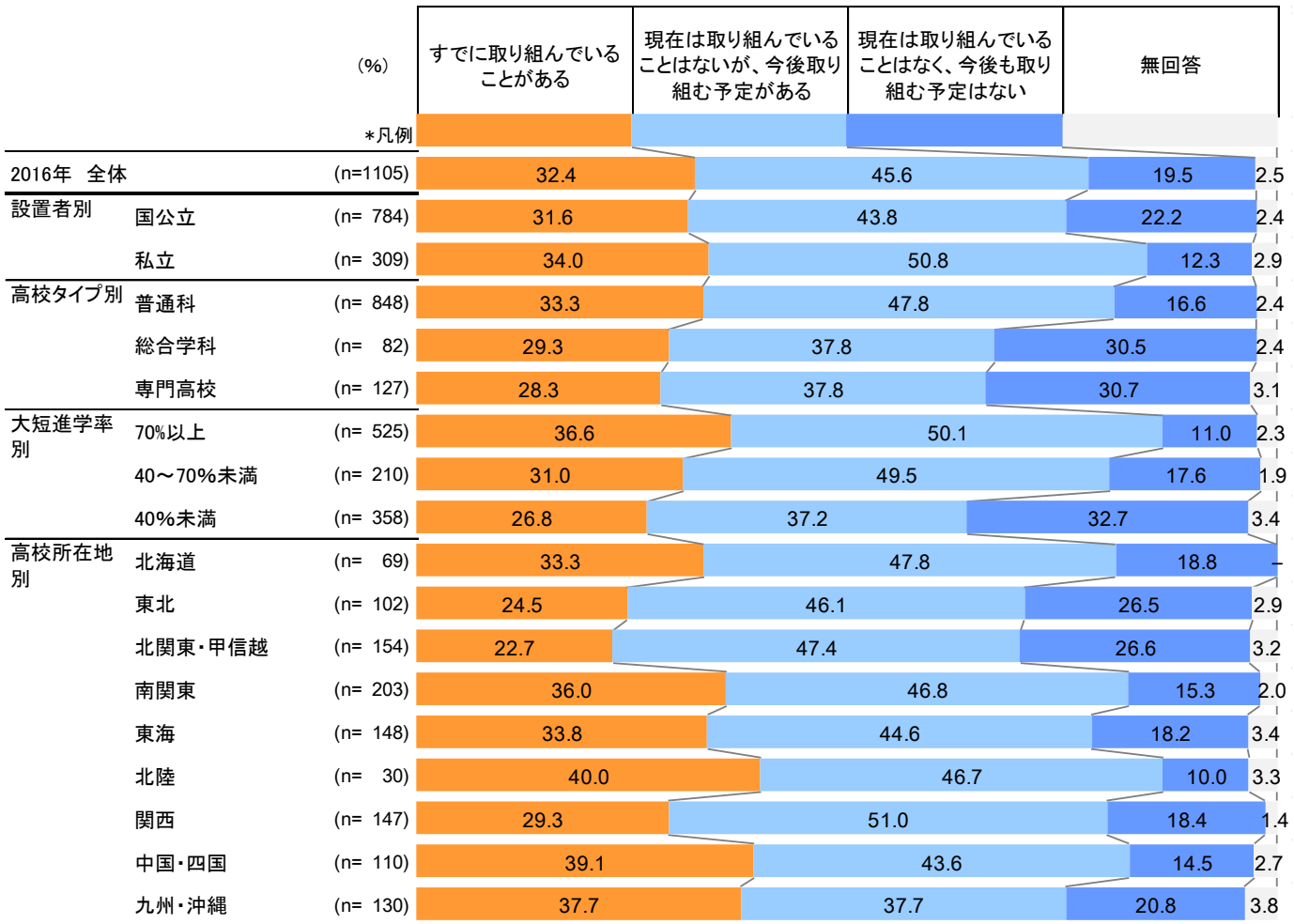
【高大接続議論を踏まえた取り組みの実施状況】

■32.4%の高校が、高大接続議論を踏まえた取り組みを実施。

・高大接続議論を踏まえた取り組みを実施している高校は全体の32.4%。
「今後取り組む予定がある」（45.6%）が、実施を上回った。

・大学・短大進学率が高いほど実施率が高い。

■高大接続議論を踏まえた取り組みの実施状況 （全体／単一回答）



※設問文として、「高等学校教育改革として、「教育課程の見直し」「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善」「多面的な評価の充実」など様々な施策が議論されています。高大接続議論を踏まえて、貴校ですでに取り組まれていることはありますか。」と提示。

※参考　高大接続システム改革の基本的な内容
（平成28年3月31日高大接続システム会議最終報告より抜粋）

高大接続システム改革は、高等学校教育改革、大学教育改革、及び大学入学者選抜改革をシステムとして、一貫した理念の下、一体的に行う改革である。一人一人が、「学力の３要素」（注）を基盤に、自分に自信を持ち、多様な他者とともにこれからの時代を新たに創造していく力を持つことができるよう、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜全体の在り方を転換していかなければならない。

（注）「学力の3要素」（学校教育法）
（1）基礎的・基本的な知識・技能
（2）知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
（3）主体的に学習に取り組む態度

【高大接続議論を踏まえた取り組みの実施内容】

取り組みの実施内容（フリーコメント）

「アクティブラーニングの実施」
・アクティブラーニングの導入（全授業・全教員）。
・アクティブラーニング導入のために外部講師を招き、全教科で研究授業を実施し、講評をいただいている。
・総合学習で、英語を軸にしたアクティブラーニングを一部導入。英語４技能の活用と、それを通じて思考力・判断力・表現力の育成を目指している。
・アクティブラーニングを個人の努力から全体としての取り組みへ移行させようとしている。

「教育課程の見直し」
・カリキュラム改訂の準備作業。新科目設定に対する複数教科での協同授業の模索。
・各教科バランスよく学べるようにするためのカリキュラムの見直し。
・教育課程を見直し、全生徒が総合学習以外でもプロジェクト型学習に取り組めるようにした。保健、家庭科、情報を融合した地域生活学の実施。
・新テストに対応した教育課程の見直し。

「多面的な評価の充実」
・評価についてルーブリック、ポートフォリオ、パフォーマンス評価を少しずつ実施。
・観点別評価の導入。
・成績算出ではレポートやプレゼンテーションにも得点を含み、ペーパーでの一問一答型からの脱却を図っている。

「外部との連携による授業改善」
・自治体との連携授業。地域創生を考え、実行する内容を実施している。
・希望者対象に大学と連携して「アカデミックインターンシップ」を実施している。月１回６か月間、講義を受け実験をして研究する。

「その他」
・教務部、進路指導部、教育企画部の３部連携による教育改革関連の情報収集や検討、教員研修会の実施。
・ＩＣＴの導入により、電子黒板を利用した授業やスカイプを利用した英会話講座の実施。

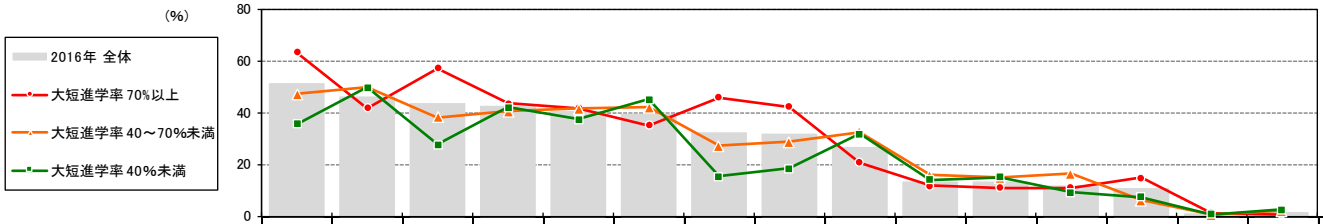
【高大接続への対応を進めるうえでの課題やハードル】

■トップは「大学入学希望者学力評価テスト（仮）の内容がまだ具体的ではないので対策が取れない」（51.2%）。

・高大接続議論への対応・教育改革を進めるうえでの課題やハードル

1位「大学入学希望者学力評価テスト（仮）の内容がまだ具体的ではないので対策が取れない」（51.2 %）
2位「教員の多忙により、新しい取り組みに着手する時間的余裕がない」（46.0%）
3位「高大接続に関して議論されている様々な事実が本当に実現するのか懐疑的」（43.6%）

■高大接続議論への対応・教育改革を進めるうえでの課題やハードル （全体／複数回答）



			大学入学希望者学力評価テスト（仮）の内容がまだ具体的ではないので対策が取れない	教員の多忙により、新しい取り組みに着手する時間的余裕がない	高大接続に関して議論されている様々な事実が本当に実現するのか懐疑的	高大接続議論に関する全体的な情報の不足（タイムリーな情報収集）	総論は理解できるが、高校が具体的に何をすればいいのかわからない	現場の教員の理解・認識不足	CBTや複数回受験など、実施環境や時期について現実的ではない	個別の大学の入学者選抜が、従来の在り方と本当に変わるか懐疑的	校内に推進体制・組織を設置する人的余裕がない	学校としての見解がそろわない、意見の不一致	保護者の理解・認識不足	管理職の理解・認識不足	総論は理解できるが、各論レベルの施策には賛同できない	特に、推進に当たってのハードルは感じていない	その他	無回答
2016年 全体		(n=1105)	51.2	46.0	43.6	42.6	40.2	39.5	32.3	31.8	26.6	13.2	13.0	11.6	10.7	1.0	1.4	2.4
設置者別	国公立	(n= 784)	48.7	48.9	42.2	44.8	42.0	39.7	30.7	30.9	27.8	12.2	13.1	8.0	11.0	0.8	1.9	2.2
	私立	(n= 309)	57.0	38.5	47.6	36.6	35.9	39.5	36.2	34.0	23.0	15.9	12.9	20.1	10.0	1.6	0.3	3.2
高校タイプ別	普通科	(n= 848)	56.3	45.6	48.8	42.7	41.9	38.4	38.1	35.4	25.9	13.1	12.1	11.4	12.1	0.6	1.5	2.4
	総合学科	(n= 82)	46.3	50.0	28.0	48.8	42.7	50.0	15.9	34.1	29.3	20.7	23.2	18.3	6.1	1.2	1.2	–
	専門高校	(n= 127)	26.8	47.2	22.8	38.6	29.1	39.4	7.1	11.8	28.3	11.0	12.6	7.9	5.5	1.6	0.8	4.7
大短進学率別	70%以上	(n= 525)	63.2	41.7	57.0	43.6	41.7	35.0	45.9	42.1	20.6	11.8	11.0	11.0	14.9	1.3	0.6	2.5
	40～70%未満	(n= 210)	47.1	50.0	38.1	40.5	41.4	41.9	27.1	28.6	32.4	15.7	14.8	16.2	6.2	0.5	1.9	2.4
	40%未満	(n= 358)	35.5	49.7	27.7	41.9	37.4	45.0	15.4	18.4	31.6	14.0	15.1	9.2	7.3	0.8	2.5	2.5
高校所在地別	北海道	(n= 69)	53.6	55.1	39.1	58.0	44.9	43.5	29.0	29.0	27.5	15.9	14.5	7.2	7.2	–	1.4	1.4
	東北	(n= 102)	42.2	52.0	39.2	35.3	41.2	38.2	20.6	30.4	26.5	7.8	17.6	8.8	8.8	1.0	2.0	1.0
	北関東・甲信越	(n= 154)	47.4	40.3	42.9	48.1	40.3	40.9	28.6	31.8	26.6	14.9	11.7	9.7	13.6	2.6	0.6	1.3
	南関東	(n= 203)	59.1	49.8	49.8	43.8	36.0	39.4	39.4	38.4	30.0	16.3	14.3	16.7	13.3	1.0	1.5	2.5
	東海	(n= 148)	53.4	48.6	43.9	45.9	42.6	44.6	34.5	35.8	27.0	12.8	15.5	9.5	10.8	0.7	0.7	3.4
	北陸	(n= 30)	50.0	43.3	40.0	36.7	50.0	30.0	36.7	33.3	20.0	13.3	6.7	10.0	6.7	–	–	6.7
	関西	(n= 147)	44.9	38.8	45.6	37.4	40.1	37.4	29.3	21.8	21.8	12.9	7.5	15.0	10.9	1.4	2.7	4.1
	中国・四国	(n= 110)	55.5	48.2	48.2	38.2	40.9	37.3	42.7	34.5	28.2	13.6	16.4	10.0	10.0	0.9	0.9	0.9
	九州・沖縄	(n= 130)	49.2	40.8	36.2	37.7	38.5	38.5	27.7	27.7	24.6	10.0	10.8	9.2	7.7	–	2.3	3.1

※「2016年 全体」より 5.0 5pt以上高い ／ - 5.0 5pt以上低い
※「2016年全体」降順ソート

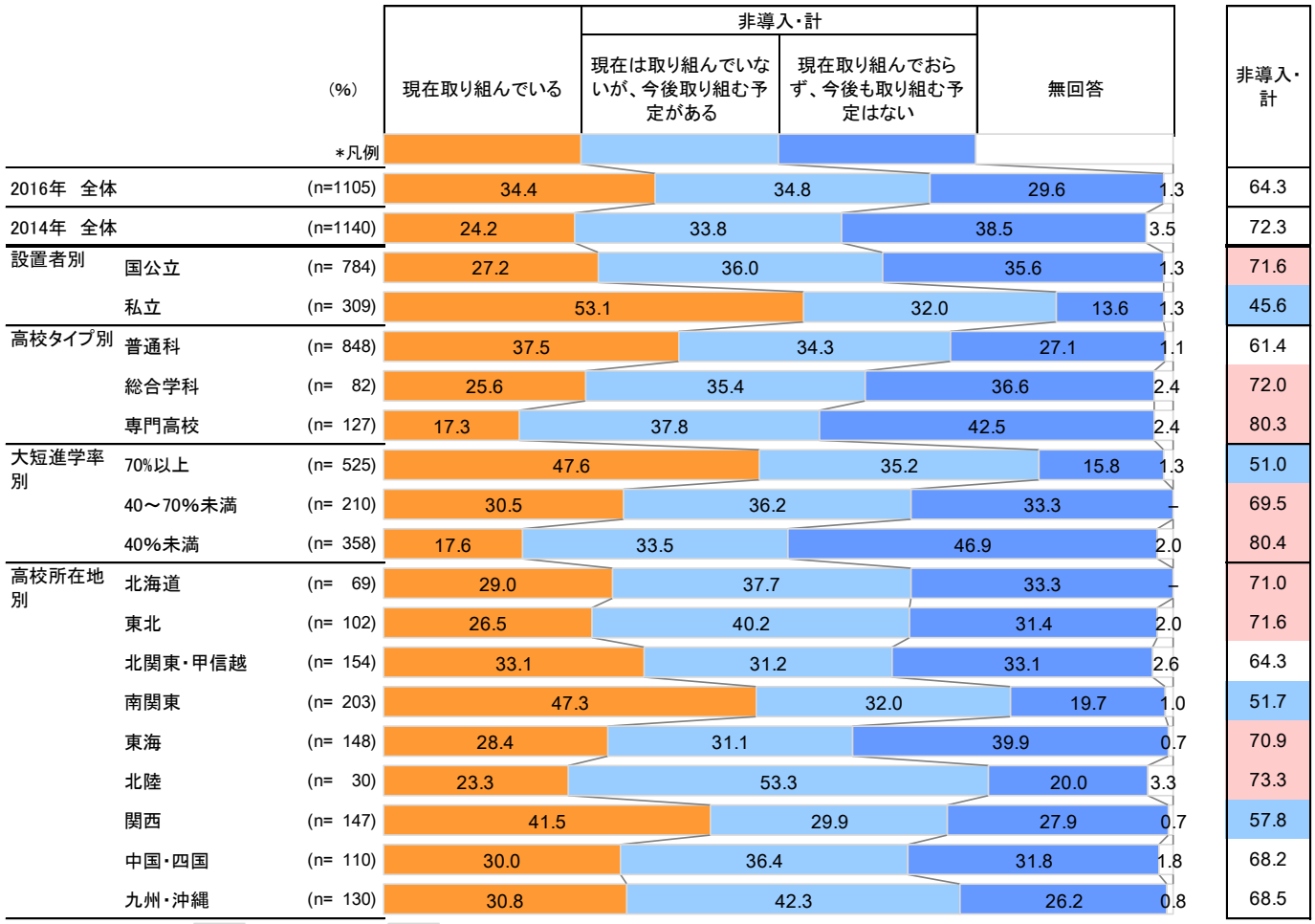
【グローバル社会への対応】

■34.4%の高校が、グローバル社会を意識した教育の取り組みを実施。前回調査より10.2ポイントの上昇。

・グローバル社会を意識した取り組みをを実施している高校は全体の34.4%。
前回調査（2014年）の24.2%から10.2ポイント増加した。

・大学・短大進学率別にみると、進学率が高いほど実施率が高い。

■グローバル社会を意識した教育の取り組み （全体／単一回答）



※「2016年 全体」より 5.0 5pt以上高い ／ - 5.0 5pt以上低い
※時系列の全体同士の差の網掛けはおこなっていない。